

# コミナティの副反応について

## 副反応は3種類です

---

- ① ワクチンを接種した部位に痛みや腫れを発生します。
- ② ごく少数ですが、ワクチン接種後 15 分以内に発生する副反応（アナフィラキシーがこれにあたります）があります。
- ③ 少し時間が経ってから発生する副反応（多くは 48 時間以内に発生します）があり、これが比較的多い副反応です。

## 副反応の頻度は年齢と性別によって異なります

---

- ・上記①の接種部位反応は、ほぼ全例で大差なく発生します。
- ・副反応の多くは上記③のタイプで、発熱・倦怠感・頭痛・関節痛が発生します。
- ・一回目の接種では上記②③の副反応発生頻度は多くありません。
- ・二回目の接種で③の副反応が出やすい傾向があります。
- ・副反応は年齢が上になるほど頻度が減る傾向があります。
- ・副反応は女性に多い傾向があります。
- ・一回目接種で副反応が発生した方は、二回目でも副反応が発生する傾向があります。
- ・副反応の多くはワクチンに含まれている「ポリエチレングリコール（PEG）」という成分に対しての過剰反応と予想されています。PEG は化粧品にも含まれる成分です。

## ほとんどの副反応は自然軽快します

---

- ・上記①の接種部位反応への投薬治療は行いません。
- ・上記②の場合、副反応の出方によって、点滴・アドレナリン・ステロイド投与などの治療を行います。
- ・上記③の副反応にも原則的に投薬治療は不要です。ただし、家事や仕事に支障がある場合、解熱鎮痛剤を服用します。イブプロフェン・アセトアミノフェン・ロキソプロフェンなどが推奨されますが、これらの薬剤による副作用の懸念もあります。また、これらの薬剤がワクチン効果（抗ウイルス抗体誘導）を減弱させるのではないかという報告もあり、必ず服用しなければならないというものではありません。